

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-03-19

【図書紹介】 『高校倫理からの哲学』 全4
巻・別巻1 直江清隆／越智貢編 岩波書店
二〇一二年

近堂, 秀 / KONDO, Su

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

法政哲学 / 法政哲学

(巻 / Volume)

10

(開始ページ / Start Page)

66

(終了ページ / End Page)

66

(発行年 / Year)

2014-03

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00009890>

【図書紹介】

『高校倫理からの哲学』全4巻・別巻1

直江清隆／越智賢編 岩波書店 二〇二二年

近堂 秀

「読者の手の届くところでものの見方や考え方を提示し、読者がそれぞれの目線から「哲学する」ことを学ぶ手引きが必要だ」。こうした思いから、高等学校で学ぶ「倫理」の教科書を出発点として、高校倫理のすべての分野から題材を選んで作られたのが、本シリーズである。

本シリーズ全体のテーマは、「人間とは何か」である。各巻は、「生きるとは」「知るとは」「正義とは」「自由とは」について考えを深めることができるように組み立てられており、各巻末の高校倫理学習課程対応表と各講はじめのキーワードによって「倫理」教科書との対応状況が確認できる。各講は、それぞれ本文、対話、コラムで構成されており、「倫理は普遍的か」「尊厳と生命」などのテーマについて日常的なことから出発して考えるようになっていく。本文の末尾には課題が置かれており、その課題について登場人物が議論する対話が続く。分野の偏りをなくし、各巻の記述を補う目的で、課題探究も置かれている。哲学者などの先人の思想は、具体的な問題を考えるうえでの道

筋を提供してくれるものとして、事例を扱うなかで読者に提示される。例えば「正義とは」と題された第3巻の第1講では、「すべての人にあてはまる倫理はあるのか——倫理とその普遍性——」というテーマについて小野原雅夫氏が考えている。小野原氏は、「名譽の殺人」という風習の是非を「問いの始まり」として、普遍的倫理の探求とそれに対する懐疑について考えながら、グローバル・エシックスの試みが不可欠であることを訴える。

また、「災害に向きあう」をテーマとした別巻では、「神はなぜ悪を許すのか——リスボン地震と弁神論・啓蒙思想——」というタイトルのもと、福島清紀氏が天災をめぐる問題との格闘のありようを近代西欧の思想史に探っている。福島氏は、リスボン地震によりヴォルテールの人生観・世界観が変化したことを手がかりにして、天災に対する人間のあり方を探りながら、悪の起源とオペティミズムについて論じる。

法政哲学会会員では他に、関口和男氏が課題探究とコラムを担当しており、会員の精力的な活動を知ることでもできる。読者は、本シリーズを通じて、哲学とは何かを広く一般に向けて語る営みが哲学の本質に触れることを教えらるるであろう。